

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和4年6月1日
(前回公表年月日:平成29年10月1日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																					
専門学校 北日本自動車大学校		昭和59年11月30日		酒井 啓資		〒 079-1371 北海道芦別市上芦別町118番地132 (電話) 0124-22-3811																					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																					
学校法人土岐学園		昭和39年2月10日		宮崎 公嘉		〒509-5117 岐阜県土岐市肥田浅野朝日町2-7 (電話) 0572-55-8511																					
分野		認定課程名		認定学科名		専門士																					
工業		工業専門課程		自動車整備科		平成13年3月8日 文部科学大臣告示第30号																					
高度専門士																											
学科の目的		実社会に適した、自動車整備士としての専門の知識技能を授けるとともに、一般教養を高めて健全なる国民のため、学校教育法に基づき専修学校教育を行うことを目的とする																									
認定年月日		平成 年 月 日																									
修業年限		昼夜		講義		演習																					
2 年		2007時間		748時間		1259時間																					
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数																					
80人		27人				7人																					
兼任教員数		総教員数																									
80人		27人				7人																					
学期制度		■前期:1学期:4月1日～6月12日 ■前期:2学期:6月13日～9月30日 ■後期:3学期:10月1日～12月11日 ■後期:4学期:12月12日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価規定による5段階およびGP、GPAによる評価																					
長期休み		■春季:3月20日～4月5日 ■夏季:7月20日～8月20日 ■冬季:12月23日～1月15日		卒業・進級 条件		学則第14条第1項 認定基準による 学科は年間総得点の60%以上、実技は70%以上 出席率90%以上																					
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者の指導等の対応		課外活動		■課外活動の種類 地元社会福祉協議会よりボランティア組織として認定され、 組織として様々な活動を行っている。 ■サークル活動: 有																					
就職等の 状況※2		■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 札幌日産、北海道スバル、北海道日野、トヨタカローラ札幌、 ホンダ四輪販売、北海道マツダ販売、ネクステージ、札幌トヨ ■就職指導内容 個人面接、ジョブカード作成、無料職業紹介所、企業人事担 当者による就職指導 ■卒業者数 19 人 ■就職希望者数 19 人 ■就職者数 19 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 (令和 2 年度卒業生に関する 明治33年1月0日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に対する令和4年5月1日時点の情報) <table><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr><tr><td>2級ガソリン自動車 整備士</td><td>②</td><td>25人</td><td>25人</td></tr><tr><td>2級ジーゼル自動車整備士</td><td>②</td><td>25人</td><td>22人</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれ かに該当 するかを記載する ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 技能講習:ガス溶接、フォークリフト運転、小型移動式クレーン、玉掛け 特別教育:アーク溶接、電気自動車整備等、自由研削砥石、タイヤ空気 充填 JAMCAソーシャル検定等在学中に取得指導		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	2級ガソリン自動車 整備士	②	25人	25人	2級ジーゼル自動車整備士	②	25人	22人								
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
2級ガソリン自動車 整備士	②	25人	25人																								
2級ジーゼル自動車整備士	②	25人	22人																								
中途退学 の現状		■中途退学者 3 名 令和2年4月1日時点において、在学者44名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者41名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 理想とのギャップが大きかった、違う目的達成のため ■中退防止・中退者支援のための取組 担任、学科長、教頭による聞き取り調査、三者面談、家庭訪問など		■中退率 7 %																							
経済的支援 制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有)無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: (給付対象)非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による 学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科の ホームページ URL		http://www.a-tec.jp																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
国又は地域の産業振興の方向性を見極めながら、実務に必要な最新の知識・技術・技能を習得するために必要な情報の把握・分析を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程編成委員会の意見(授業内容、方法の改善など)にあたっては、職員会議等で審議し、理事長及び学校長の許可を経てカリキュラムに取り入れ、実践的かつ専門的な職業教育の実施に努める。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和〇年〇月〇日現在

名 前	所 属	任期	種別
坂 井 大 樹	株式会社芦別モータース	令和4年6月1日～ 令和6年3月31日	③
中 山 透	東和自動車整備工業株式会社	令和4年6月1日～ 令和6年3月31日	③
飯 高 誠	芦別市役所企画政策課	令和4年6月1日～ 令和6年3月31日	①
酒 井 啓 資	北日本自動車大学校 校長	令和4年6月1日～ 令和6年3月31日	
斉 藤 敏 幸	北日本自動車大学校 教頭	令和4年6月1日～ 令和6年3月31日	
蝦 名 慶 一	北日本自動車大学校 教務課長	令和4年6月1日～ 令和6年3月31日	
黒 田 真 司	北日本自動車大学校 整備課長	令和4年6月1日～ 令和6年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
開催回数は年2回とし、開催時期は2学期、4学期終了時とする
(開催日時(実績))
第1回 令和2年7月 コロナ感染拡大防止のため中止(教職員で協議)
第2回 令和3年2月 コロナ感染拡大防止のため中止(教職員で協議)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
① 学科担当の見直しとクラス運営についての取り組み(複数教員がクラス運営にかかわることで教育力の向上を目指す)
② 基礎学力向上についての取り組み(補習カリキュラムなどの見直し)

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
自動車整備の実務に関する接客対応、実際の故障や不具合の確認、実際に使用されている経年変化を伴った車両整備や地域の特性(農業、林業、積雪地帯などの車両、積雪地域特有の不具合)による整備内容や技術、最新スキャンツールの実践技術をみにつける。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
各販売会社の整備担当者による整備現場での実例などをもとに実習する

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
応用実習Ⅱ	自動車板金・塗装の基礎から応用まで 実際の工場にてエンジンオイルの交換、タイヤ交換点検要領	(株)ネクステージ
応用実習Ⅱ	最新スキャンツールによる高度故障探求 レーダー、セーザー、カメラのエーミング調整	ホンダベルノ旭川(株)
応用実習Ⅱ	最新のエンジンの構造、故障診断要領 最新車両の体験試乗	北海道マツダ販売(株)
基本実習Ⅱ	仕事効率化、グループワークの重要性など	旭川スズキ販売(株)
実務実習	先進安全自動車(ASV)の故障診断、エーミング調整など	北海道スバル(株)

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員研修規定に基づき、研修委員会が研修プログラムを企画し、連携企業による職員研修を実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

令和3年9月8日

札幌地方自動車整備振興会主催

整備主任者技術研修

令和3年9月8日

札幌地方自動車整備振興会主催

自動車整備技術コンサルタント認定研修

令和3年10月27日

札幌地方自動車整備振興会主催

整備主任者学科法令研修

②指導力の修得・向上のための研修等

令和3年7月26～8月2日

北海道私立専修学校各種学校連合会主催

教員能力認定研修会

令和3年8月3日

北海道私立専修学校各種学校連合会主催

職業実践専門課程に係る研修会

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

令和4年7月8日

札幌地方自動車整備振興会主催

整備主任者技術研修

令和4年10月26日

札幌地方自動車整備振興会主催

整備主任者学科法令研修

②指導力の修得・向上のための研修等

令和4年8月2日

北海道私立専修学校各種学校連合会主催

職業実践専門課程に係る研修会

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

実践的かつ専門的な職業教育に係る活動等を評価し、改善・支援等を行うことにより、学生等が関係業界等のニーズを踏まえた質の高い職業教育を享受できるよう学校運営の改善と、専修学校教育の発展を目的とした学校評価を行う。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	専門分野の特性、職業教育の特徴、学生等への周知、業過のニーズ
(2)学校運営	運営方針、組織運営規定、事業計画、コンプライアンス遵守、情報公開
(3)教育活動	教育規定、カリキュラム、シラバス、インターンシップ、成績評価、単位
(4)学修成果	就職率、資格取得率、退学率の低減、卒業後の動向調査
(5)学生支援	就職支援、生活相談、健康管理、課外活動支援、保護者とに連携
(6)教育環境	施設設備充実、インターンシップ環境の整備、防災訓練
(7)学生の受入れ募集	募集活動、教育成果の伝達、学納金
(8)財務	中長期計画、予算・収支計画、会計監査、情報公開
(9)法令等の遵守	設置基準、個人情報の管理、自己評価と改善
(10)社会貢献・地域貢献	社会福祉協議会認定団体、各種ボランティア活動、公共職業訓練受入
(11)国際交流	留学生受け入れ、在籍管理、アルバイト、学習・生活指導

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・学科担当の見直しとクラス担任制度の見直し

・企業委託生制度の検討について

・国家試験対策と不合格者へのフォローアップの見直し

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年6月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
関谷 誠	芦別商工会議所 専務理事	令和4年6月1日～ 令和6年3月31日	公共団体
林 秀樹	空知交通株式会社 代表取締役社長	令和4年6月1日～ 令和6年3月31日	企業委員
西田良史	有限会社カーショップ代表	令和4年6月1日～ 令和6年3月31日	卒業生
松田友和	会社員	令和4年6月1日～ 令和6年3月31日	保護者
酒 井 啓 資	北日本自動車大学校 校長	令和4年6月1日～ 令和6年3月31日	学校職員
斉 藤 敏 幸	北日本自動車大学校 教頭	令和4年6月1日～ 令和6年3月31日	学校職員
蝦 名 慶 一	北日本自動車大学校 教務課長	令和4年6月1日～ 令和6年3月31日	学校職員
黒 田 真 司	北日本自動車大学校 整備課長	令和4年6月1日～ 令和6年3月31日	学校職員

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL:<http://www.a-tec.jp>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ・学校の教育活動や学校運営の状況に関する情報提供を積極的に行い、関係者の理解を深める。
- ・教育機関として、その教育活動や取り組みについて、社会への説明責任を果たす。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要(教育理念、教育目標)、公務分掌一覧
(2)各学科等の教育	シラバス
(3)教職員	組織運営規程、職員研修規程
(4)キャリア教育・実践的職業教育	教育編成委員会規程、自己評価報告書
(5)様々な教育活動・教育環境	学校関係者評価報告書、成績評価及び修了と卒業に関する規程
(6)学生の生活支援	学則、細則
(7)学生納付金・修学支援	学生生活ガイド
(8)学校の財務	財務
(9)学校評価	学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	学校関係者評価報告書
(11)その他	学校保健安全に関する規程、防災規程、危険管理マニュアル

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

<http://www.a-tec.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科 自動車工学科 1 年次) 令和 3 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			英語	自動車サービスマンは、「国際人」としても通用するように、基礎知識を身に付けることを主目的とします。	1	8		○		
○			自動車総論	職場、中堅従業員の心得、効果的な仕事の進め方などを理解して、将来中堅従業員としての仕事とその役割を理解する。	1	10		○		
○			ガソリンエンジン構造	ガソリン・エンジンの本体、潤滑、冷却、燃料、吸排気装置の構造や作動、名称などを習得し 2 級自動車整備士資格を目指す。	1	63		○		
○			シャシ構造	自動車の動力伝達、走行、制動、緩衝、かじ取り、シャシ電装部品の構造や作動、名称などを習得し 2 級自動車整備士資格取得を目指す	1	66		○		
○			電装品構造	自動車のエンジンに関わる電装品を中心に各装置の構造、作動、機能、保守、整備を学び自動車整備に必要な知識、技術を学びます。	1	50		○		
○			ディーゼルエンジン構造	ディーゼル・エンジンの燃焼・作動を理解し各装置の構造、名称などを習得し 2 級自動車整備士資格取得を目指す。	1	39		○		
○			内燃機関	内燃機関の理論サイクルや各種燃料の性状と規格、潤滑剤、作動油等の特徴を習得し、近年の新製品、新規格なども修得する。	1	8		○		
○			自動車製図	自動車製図の基本を習得し、図面を作成する目的、更にその図面に示す情報が利用できるようにする。	1	7		○		
小計				8	科目	282	単位時間 (	単位)		

卒業要件および履修方法

出席率が全時間数の 90%以上であること。試験規程に定められた試験に合格し、かつ、学科（講義）科目は 6 以上、実習科目は 7 以上の評価を全て受けていること。

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業との連携については、実施要項の 3 の（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科 自動車工学科 1 年次) 令和 3 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			自動車数学	国家試験によく出題される計算問題を解く上で、必要となる自動車工学の基礎的な、原理、法則、公式を習得します。	1	40		○		
○			自動車材料	2 級自動車整備士資格取得を主目的としながらも、近年の新素材やリサイクルを容易にする材料やなども合わせて修得します。	1	7		○		
○			二輪車構造	二輪車の構造・機能・特性並びに整備方法を修得し、2 年次の二輪車実習に結びつく基礎知識、基礎技術を修得する。	1	13		○		
○			整備機器	整備用機器の名称と構造及び取扱い方法や保守管理などについて学びます。	1	16		○		
○			自動車法規	最新の関係法令等及び通達や、法令を理解し自動車整備業界に携われるようし、2 級自動車整備士資格取得を主目的とします。	1	24		○		
○			基本実習 I 手仕上げ	丸棒から六角ナットを製作する各工程に使用する工具や測定機器、卓上ボール盤、旋盤などの知識や使用方法及び注意事項の修得	1	30				○
○			基本実習 I 基礎整備	手持ち工具、特殊工具の名称、使用方法及びネジに関する基礎知識、ガレージ・ジャッキ、リジット・ラック、及び 2 柱リフト、油圧リフトの使用法、安全作業を修得	1	30				○
○			基本実習 I 基本測定	一般測定機器の名称、構造、原理、取扱い DMM の作製、半田付けの技術及び半導体の知識 DMM を使用して点検方法修得	1	30				○
小計				8 科目		190 単位時間 (単位)				

卒業要件および履修方法

出席率が全時間数の 90%以上であること。試験規程に定められた試験に合格し、かつ、学科（講義）科目は 6 以上、実習科目は 7 以上の評価を全て受けていること。

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業との連携については、実施要項の 3 の（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科 自動車工学科 1 年次) 令和 3 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			基本実習Ⅰ エンジン	ガソリンエンジンの分解・組み付け、始動を通じて、工具の選択や使用方法並びにエンジン部品各部の測定バルブ・タイミング・ダイヤグラムを修得	1	85				○
○			基本実習Ⅰ シャシ	MT の脱着作業及びクラッチの分解、組み付け、点検及び MT 分解、点検、組み付け方法および構造、作動の知識を修得	1	85				○
○			基本実習Ⅰ 電装	点火、始動、充電装置の各構成部品、回路スタータ・モータ、オルタネータ、I G コイル、イグナイタ、スパークプラグの点検、測定の方法を修得	1	85				○
○			基本実習Ⅱ エンジン	実車からエンジンの脱着 6 気筒ガソリンエンジンの分解・組付・点検および冷却、潤滑装置の構造、作動、6 気筒のバルブ・タイミング・ダイヤグラム	1	80				○
○			基本実習Ⅱ シャシⅠ	デフアレンシャル、ペラ・シャフト、ユニバーサル・ジョイント、ステアリングの構造、分解、組付、点検及びホイール・アライメント基礎知識、測定	1	80				○
○			基本実習Ⅱ シャシⅡ	制動装置全般、ホイール・ハブ分解、組付、点検、調整及びタイヤ・ホイールの基礎知識と脱着及びホイール・バランス調整	1	80				○
○			基本実習Ⅲ エンジン	電子制御式燃料噴射装置の各種センサー、アクチュエータの種類、構造及び各種制御について修得	1	28				○
○			基本実習Ⅲ シャシ	AT の分解・組付けを通じて構造を修得 油圧制御および電子制御 A T の各種点検方法を理解して故障探求方法を修得	1	28				○
○			基本実習Ⅲ 電装	サーキット・テスタおよび各種測定機器を使用し、電気回路を理解して電圧、電流、抵抗の測定技術を修得	1	28				○
小計				9 科目	579 単位時間 (単位)					

卒業要件および履修方法

出席率が全時間数の 90%以上であること。試験規程に定められた試験に合格し、かつ、学科（講義）科目は 6 以上、実習科目は 7 以上の評価を全て受けていること。

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業との連携については、実施要項の 3 の（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科 自動車整備科 自動車工学科 2 年次) 令和 3 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次	授 業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・実 習・実 技
○			自動車環境	自動車から排出される有害物質、騒音、代替エネルギーを利用した最先端技術を駆使した自動車、エンジンの仕組み・システム	2	13		○		
○			自動車数学	国家試験によく出題される問題で、必要となる自動車工学の基礎的な、原理、法則、公式を習得します。	2	21		○		
○			電子工学	自動車に使用されている電子部品の種類、構造、機能及び故障探求に使用するテスターの使用方法。また自動車の電子制御の基礎から応用	2	15		○		
○			材料力学	国家試験によく出題される計算問題を解く上で、必要となる自動車工学の基礎的な、原理、法則、公式を習得します。	2	10		○		
○			教育指導	職場で働くリーダーとして必要な基本知識・教養を身につけ、職場のリーダーとしての仕事と役割を理解する。	2	16		○		
○			自動車新機構	近年開発された新技術・新機構、次世代の自動車の専門的で先進的な技術知識	2	16		○		
○			ガソリンエンジン整備	ガソリン・エンジンに関する点検、整備の方法、ならびに不良であった場合の修理・交換の要領（点検、分解、組付けを含む）	2	31		○		
○			シャシ整備	シャシ部品に関する点検、整備の方法、ならびに不良であった場合の修理・交換の要領（点検、分解、組付けを含む）	2	31		○		
小計				8 科目	152 単位時間 (単位)					

卒業要件および履修方法

出席率が全時間数の 90%以上であること。試験規程に定められた試験に合格し、かつ、学科（講義）科目は 6 以上、実習科目は 7 以上の評価を全て受けていること。

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業との連携については、実施要項の 3 の（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科 自動車工学科 2 年次) 令和 3 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			ジーゼルエンジン整備	ジーゼルエンジンに関する点検、整備の方法、ならびに不良であった場合の修理・交換の要領がリットンエンジンとの相違点を考察する	2	29		○		
○			電装整備	エンジンに関わる電装品について、電気工学の基礎理論（電気・電子理論）と関連付けながら、各装置の構造、点検整備	2	13		○		
○			故障探求	自動車の故障の種類や原因、効率的な診断方法に対する考え方	2	20		○		
○			二級演習	幅広く二級自動車整備士試験に出題されそうな問題を掘り起こし、再度学ぶことにより、全員二級自動車整備士資格取得を目指す	2	81		○		
○			整備機器	整備用機器の名称と構造及び取扱い方法や保守管理などについて学びます。	2	18		○		
○			自動車検査	「道路運送車両法の保安基準」に定める保安上または公害防止上、その他の環境保全上の技術基準で、自動車の検査業務を行う際に基準判定が出来るようにします。	2	24		○		
○			特殊機構 二輪	二輪車の基本的な構造を学習し、点検、調整を行います。	2	35				○
○			特殊機構 エンジン	ロータリー・エンジン、LPG・エンジン、吸排気装置の構造作動を学習し、各部品の整備作業（分解、組立、点検）を行います。	2	35				○
○			特殊機構 空調	エア・コンディショナー、ヒーターの構造・作動を学習し、構成部品の分解・点検作業を行う。	2	35				○
小計					9	科目	290	単位時間 (単位)		

卒業要件および履修方法

出席率が全時間数の 90%以上であること。試験規程に定められた試験に合格し、かつ、学科（講義）科目は 6 以上、実習科目は 7 以上の評価を全て受けていること。

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業との連携については、実施要項の 3 の (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科 自動車工学科 2 年次) 令和 3 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			応用実習Ⅰ エンジン	各種ガソリン・エンジンの分解・組み付けを通じて、より一層理解を深めるとともに、エンジン部品各部の点検・測定・良否判定を行います。	2	80				○
○			応用実習Ⅰ シャシ	大型車に使われているブレーキ装置、サスペンションについて、小型車との違いを把握し理解を深める。	2	80				○
○			応用実習Ⅰ 電装	シャシ電装の点検を通して、電気系統に対する理解と故障探求を身に付ける エア・バッグ装置、カー・ナビゲーション・システムの構造を理解させる。	2	80				○
○			応用実習Ⅱ ジーゼル	ジーゼル・エンジン本体及びノズル、噴射ポンプ、グロー・プラグについて構造・作動とガソリン・エンジンとの違いなどを学習し、分解、点検、組付け・点検を行う。	2	70				○
○			応用実習Ⅱ 検査	自動車検査作業の流れを、検査機器を通して理解し、機器の取扱いや、記録簿への記載方法を学び、検査の良否判断能力をつける。	2	70				○
○			応用実習Ⅱ 総合	エンジン、シャシ、電装の総合的な実習を通じスキヤンツールの取扱いなども習得する。	2	70				○
○			フロントマン実習	フロント業務は、お客様と接する最前線であり、整備事業発展のための中心的役割を担っていることを認識させる。	2	35				○
小計				6 科目		485 単位時間 (単位)				

卒業要件および履修方法

出席率が全時間数の 90%以上であること。試験規程に定められた試験に合格し、かつ、学科（講義）科目は 6 以上、実習科目は 7 以上の評価を全て受けていること。

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業との連携については、実施要項の 3 の（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと